

第5回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時・場所 平成18年7月1日(土) 13:30~16:30 紀宝町生涯学習センター まなびの郷
出席者 委員12人(4人欠席)、河川管理者等7人、傍聴者49人

第5回熊野川懇談会を開催し、これまでの経過報告、質問に対する回答、熊野川の治水(その2)、今後の進め方等について審議を行った。第5回の議事骨子は以下のようである。

1. 経過報告

熊野川懇談会のこれまでの経緯および第4回懇談会(3月4日開催)の審議内容について報告された。

2. 質問に対する回答

河川管理者から質問に対する回答についての説明を受け、その内容について質疑応答を行なった。主な内容は以下の通りである。

- ・電発は目標水位を設定し自主的に努力されているということであるが、さらに努力は可能なのか。
目標水位は今後も守っていきたいが、濁水の問題等もあり、これが精一杯と考えている。(電発)
- ・降雨量の変化の振幅が大きいという説明であったが、標準偏差などの変動値を算出しているのか。
降雨量の変動値は算出していない。(河川管理者)
- ・洪水特性で、ピーク流量に対して48時間雨量を代表させるのは適切なのか。
過去の降雨継続時間を整理し、頻度として48時間が多かったのでそれで集計した。(河川管理者)

3. 熊野川の治水(その2)

河川管理者から熊野川の治水(その2)についての説明があり、それについて以下のような質疑応答があった。

- ・旧鮎田水門の通水能力が4割不足したというのは捷水路事業によるものか。また、鮎田水門のコンクリートの壁の役割を教えてください。
通水能力の不足についてはそのとおりである。またコンクリートの壁(カーテンウォール)は本川の堤防の機能を持たせたものである。(河川管理者)
- ・熊野川改修の完了予定はいつか。上下流で河川管理者が異なり、事業進捗も違うがどのように整合させるのか。和歌山県、三重県の状況についても発言されたい。
予算面もあり予定は難しい。流域全体としては総合流域防災会議で調整を行なっている。(河川管理者)
和歌山県で治水の対象となる箇所は、本宮地区と日足地区の2箇所である。現在、地元意見を集め必要な治水対策を議論している。熊野川懇談会と併行的に整備計画を進めている。(和歌山県)
人家の多い河川を中心に事業を進めている。熊野川ではソフト対策を実施している。(三重県)
- ・支川の相野谷川にここ5年で土砂が堆積し親水護岸が埋まっている。これに対する計画はあるか。
堆積傾向はある。現在水防災事業を主にしており、今のところ対策の計画はない。(河川管理者)
(この件については、次回、環境の中で説明して頂きたい。)
- ・本川左岸では津波が堤防高の50cm下まで上がるということだが、堤防の安全性に問題はないか。
左岸については現状でよいとは考えていない。(河川管理者)
- ・ダムによる洪水低減量が大きいということは、管理上、協力してダムの操作も折り込んだ洪水予測の体制づくりをするべきであるということにはならないか。 検討する。(河川管理者)
- ・雨量と流量で関連があまり見られないのは、雨量観測点が十分でないためなのではないか。
(観測点が十分かどうか、今後河川管理者が検討すべき課題である。)
- ・下流区間に取水施設がいくつかあるが、現在使われていないものもある。景観的に問題である。
撤去は占有者の責任であるので、占用の更新時期に撤去するように指示している。(河川管理者)
- ・治水に関してダム、県、国と個々で努力しているが、全体としての対応が見えない。
(これについては今後、河川管理者も懇談会も重要な課題として議論していくべきである。)

4. その他

(今後の進め方)

今後の進め方について審議を行なった。委員および管理者からの主な提案は以下の通りである。

- ・多自然川づくりについてまとめて頂きたい。
- ・懇談会の審議の中で、聞きたい情報、必要な情報があれば、その内容を書面で庶務に提出すること。
- ・本日の質問事項と併せ、これまでに各委員から指示された資料、質問事項のとりまとめ結果については、個別に各委員に説明を行なう。(河川管理者)

(傍聴者からの主な意見)

- ・熊野川懇談会の委員の方々、関係者の方々には、毎回熱心に討議頂き感謝している。今後とも流域全体に対して指導、協力いただけるようお願いしたい。
- ・熊野川の本来の動きをどう考えているか。河口まで流れている石がダムに溜まり海岸が小さくなっている。今後どのような熊野川と付き合うことになるのかそのあたりが気になっている。